附設展示予定参考一覧

	学会・展示会名	大会長	会　期	会　場	申込締切(予定)	料　金	出展企業数(昨年度)	予定参加人数	特長(一部学会HP内より抜粋)
★	**第92回日本薬理学会年会**	金井 好克 (大阪大学大学院医学系研究科生体システム薬理学　教授)	3月14日(木) 〜 3月16日(土)	大阪国際会議場	11月30日(金)	¥216,000	70小間	2,300名	薬理学は、化合物と標的との相互作用に基づき生命現象にアプローチするという独自の視点のもとに、薬物や生理活性物質の生体への作用を総合的に理解する生命科学の分野として発展してきました。2019年の年会テーマを「創造と協奏 〜薬理学の新たな地平を拓く〜」として、WCP2018を補完し、WCP2018の成果を日本の薬理学の今後の発展に繋げる年会としたく思っております
★	**日本農芸化学会2019年度大会**	浅見 忠男 (東京大学大学院農学生命科学研究科)	3月24日 (日) 〜 3月27日 (水)	東京農業大学	12月18日(火)	¥210,000	92社 (118小間)	5,000名	日本農芸化学会大会は生命食環境の3つのキーワードに代表される「化学と生物」に関する基礎から応用までの幅広い研究成果を発表する場であり毎年開催されています。
☆ ★	**第92回日本細菌学会総会**	山口 博之 (北海道大学大学院保健科学研究院病態解析学分野)	4月23日(火) 〜 4月25日(木)	札幌コンベンション センター1F大ホール	12月20日(木)	¥162,000	15社 (16小間)	1,000名	細菌学、真菌学、感染症学、生体防御・免疫学、感染疫学、環境微生物学、ワクチン・抗菌化学療法などの予防・治療医学を中心に、医学系・歯学系・薬学系・農学獣医学系・理学系・生命工学系などの幅広い領域の多彩なテーマを学際的に取り扱っています。
☆ ★	**日本ゲノム編集学会第4回大会**	濡木 理 (東京大学理学部生物化学科大学院理学系研究科生物化学専攻)	6月3日 (月) 〜 6月5日 (水)	船堀タワーホール	4月12日(金)	¥250,000	24社 (25小間)	400名	ゲノム編集は、人工のDNA切断酵素を利用して、様々な生物において自在に遺伝情報を変化させることのできるバイオテクノロジーであり将来産業価値が高い分野です。一方で、ゲノムを改変した生物に関する倫理的な問題も存在し、そのスタンダードを構築する必要性が生じています。このような状況から、研究者および社会の要求を満たすための学会組織が必要と考え同学会を立ち上げられました。
☆ ★	**第71回日本細胞生物学会大会・第19回日本蛋白質科学会年会合同大会**	城 宜嗣 (兵庫県立大学) 遠藤 斗志也 (京都産業大学)	6月24日(月) 〜 6月26日(水)	神戸国際会議場・ 神戸国際展示場3号館	3月11日(月)	¥250,000	40社 (70小間)	1,000名	細胞内の局在などを解析するための細胞生物学会と主にタンパク質の立体構造解析を研究するタンパク質科学会の合同大会です。
☆ ★	**第40回日本炎症・再生医学会**	佐田 政隆 (徳島大学大学院医歯薬学研究部 循環器内科学分野)	7月16日(火) 〜 7月17日(水)	神戸国際会議場	3月15日(金)	¥162,000	20小間	1,000名	本学会は、基礎、臨床の様々な領域の研究者が「炎症」と「再生」をキーワードに一堂に会する学際的な大変意義のある学会であり、異分野の先生方の交流から新しい発想が導き出されることを望みます。(会長挨拶より)
★	**日本動物細胞工学会 2019年度大会**	亀井 勇統 (鹿児島県立短期大学)	7月18日(木) 〜 7月19日(金)	かごしま県民 交流センター		¥162,000	25小間	200名	２０００年代、抗体医薬の出現とともに動物細胞工学の重要性が増し、また『各種幹細胞活用の細胞医薬』、それに伴った『CPCやロボット』、『細胞品質評価技術』など動物細胞工学の分野も拡張されてきました。一方、食品の機能性研究も培養動物細胞を利用した実験系で検定する研究が盛んに行われ、動物細胞培養技術が果たす役割は今後もますます重要になっていくと予想されます。
☆ ★	**NEURO2019 第42回日本神経科学大会、 第62回日本神経化学会大会合同大会**	岡本 仁(理化学研究所脳神経科学研究センター) 那波 宏之 (新潟大学　脳研究所)	7月25日(木) 〜 7月28日(日)	朱鷺メッセ	4月19日(金)	¥230,000	90社 (120小間)	3,000名	日本神経科学会は神経生理学を基盤に、神経化学会は神経化学を基盤にそれぞれの道を歩んできました。昨今、ヒト脳科学研究や基盤神経研究はおおきな広がりを見せ、生物学や医学、薬学はもとより経済学、心理学、情報工学、システム工学、教育学、化学を巻き込んで、脳科学から社会行動や経済現象のシミュレーションを行おうとしています。まさに脳科学、神経研究はボーダーレス化しています。このようなときに、多角的、学際的な学問の融合を目指して本合同大会NEURO2019を企画しました。
★	**患者由来がんモデルの開発と 臨床応用**	近藤 格 (国立がん研究センター)	7月30日(火) 〜 8月1日(木)	国立がん研究センター		¥216,000	20社 (20小間)	250名	患者由来がんモデルは、がん研究の重要なツールとして長年使われてきました。新しい抗がん剤が次々と開発される今日においては、患者由来がんモデルの樹立やその応用への試みは、これからますます重要になると予想されます。患者由来がんモデルの開発と臨床応用を行う国内外の研究者が講演を行います。
☆ ★	**JASIS2019ライフサイエンス イノベーションゾーン**		9月4日(水) 〜 9月6日(金)	幕張メッセ	4月中旬	¥100,000	80社 (100小間)	全体24,000名 LSZ9,400名	JASISライフサイエンスイノベーションゾーンは、生命科学分野での産業創成を目指し、2013年より7年目を迎え、ゾーン参加者約1万人と、成長中の展示会です。特徴は、基調講演と企業展示、企業プレゼンが同じゾーン内にあり、聴講者とマッチングできる可能性が高いメリットがあります。
☆ ★	**第71回日本生物工学会大会**	稲垣 賢二 岡山大学大学院 環境生命科学研究科 教授	9月16日(月) 〜 9月18日(水)	岡山大学 津島キャンパス	6月28日(金)	¥216,000	45社 (53小間)	1,600名	●発酵工学/微生物を対象とした有用物質の生産、食品工業等への応用的研究と基礎学理●生物化学工学/培養法の確立、培養装置の開発・設計、発酵プロセスの制御、生産物回収のプロセス等生産プロセスを対象とした化学工学的研究●生体情報工学/生物における情報の処理機構を解明し人工手段で実現し、活用する工学●環境工学/地球環境、人間環境にかかわる諸問題の工学的改善●酵素工学/酵素の改良、人工酵素の作成および酵素を利用した化学反応系とセンサーの構築●動植物細胞工学/動物細胞、植物組織・細胞による物質生産の基礎と応用●生体医用工学/工学的手法の医学領域への応用による診断、治療などに必要な医療システムの開発研究
☆ ★	**第92回日本生化学会大会**	新井 洋由 (東京大学大学院薬学系研究科衛生化学教室)	9月18日(水) 〜 9月20日(金)	パシフィコ横浜	6月3日(月)	¥250,000	80社 (100小間)	3,000名	生化学会は、生物分野の学会としては、最も歴史と権威がある学会の一つであり、タンパク質、脂質、代謝物、細胞などを中心に幅広く生命科学のウエット研究者が参集する学会です。 92回、93回、94回と3年連続で横浜での開催となります。
☆ ★	**第57回日本生物物理学会年会**	永井 健治 (大阪大学産業科学研究所)	9月24日(火) 〜 9月26日(木)	シーガイア コンベンションセンター		¥250,000	36小間	1,500名	生物物理学会は、物理学や工学の実験手法や理論を基盤として、単1分子レベルから超分子、細胞、臓器、個体、生態系に至るあらゆる階層でのさまざまな生命機能や現象のメカニズムを解明し、その研究の発展を支えるべく研究者や技術者の交流の場として活動しております。
★	**第7回国際フードファクター会議(ICoFF2019) / 第9回ポリフェノールと健康国際会議(ICPH2019) / 第12回国際機能性食品学会(ISNFF2019)〈神戸〉**	芦田 均 (神戸大学)ほか	11月28日(木) 〜 12月5日(木)	神戸国際会議場・ 神戸国際展示場	4月30日(火)	¥250,000	46小間	2,200名	ICoFF／ISNFFのメインテーマは「食品因子の科学〜分子から臨床まで」となり、「原料と製品」「食品因子」「機能性と作用機序」などを中心に、分析法とオミクス解析、バイオマーカー、味と匂いなどの演題も予定されています。また合同大会となるICPHは「基礎研究と臨床研究〜ポリフェノール研究が目指すもの〜」をテーマに、代謝やバイオマーカー、腸内細菌や老化・肥満などの疾病予防、さらにはスポーツと運動能力といったテーマに関する演題が予定されています。
☆ ★	**第42回日本分子生物学会年会**	佐々木 裕之 (九州大学生体防御医学研究所)	12月3日(火) 〜 12月6日(金)	福岡国際会議場 マリンメッセ福岡	6月10日（月） 7月31日（水）	¥355,000 ¥370,000	193社 (312小間)	7,000名	分子生物学に留まらず、ゲノム、タンパク質、細胞、疾患、バイオインフォマティクスなど、ライフサイエンス研究者が一同に集う、日本最大のバイオの学会です。

その他、受託数学会あり　☆印は㈱エー・イー企画が学会運営　★印は㈱エー・イー企画が展示会運営　※社数は展示出展社のみの数になります